



発行所
三池炭鉱労働組合
大津市不知火町2
電話 3033
7140
編集人 渡田 紀生

保安確立を霊前に誓う

またも二名の犠牲

抗議の24時間ストに突入

去る六月二十七日の夜、宮浦四五五部内で連続三回にわたる落盤があり、死亡三、重傷五名の被害が発生した。一万五千トン体制のもと、一方の合理化の進行は保安無視・労働強化となつてあらわれ、相つづき犠牲者を強要している。組合ではもはや黙視できないと、直ちに同交申入れを行なうとともに、三十日全面二十四時間ストに突入した。

明らかに保安サボ

号外で既報のように六月二十七日、宮浦一八〇米坑道西四五五部、五部下一片二昇右二中段NO3で連続三回にわたる落盤があり、三名死亡、重傷五名という大被害が発生した。

この日、一番方の波村・井手口・山口・渡田さんの四名は当切羽探検として(残柱式切羽)横込まれ、現場へ午前六時二十分ごろつき、直ちに作業にかかった。

午前七時四十分ごろ第一回落破、つづいて午前九時三十分ごろ第二回落破を行なった。だが、落破が思ったより効果なく、横込終了後送り矢木のままだ午前十一時三十分ごろ、第三回の落破を行なった。

このあと、送り矢木に押胸を入れるため、足盤をのりこみ積み、ちようど正午ごろにつまみ切羽面から手前へ長さ五米切羽全面、中四・八米、厚さ二米の天盤がはがれ、その下敷きとなり波村・井手口さんは圧死、山口さんは下半



いまはなき

故 徳永 諭さん 故 井手口 泉さん 故 波村 一 さん

水害後は伝染病の危険があります。各人保健衛生に注意しましょう。

三池の実態を説明

組合、石炭調査団に要望

炭労の石炭政策転換と争いによって、三池の石炭調査団一行は六月二十八日、三池に来山し、会社側、三池労組、第二組合とそれぞれ意見交換し、調査を行なった。また、灰原書記長から会社側の労務政策、保安問題と組合の導入、賃金と差別、就職あっせんについて具体的な述べ、宮川組合長は会社の経営方針の根本的問題について触れ、経営の長期計画がなく一貫性にかけていること、労資間の不信感、好条件にあぐらをかく経営などについて説明した。



調査団に山元実情を説明する組合代表(右側)

調査団もいへば激怒する三池。各支部長が出席した。

人望集める三氏

死にたれた波村さん、昭和二十二年から現場委員として現場の中心になって活動し、委員も十期つとめ、円満な人格で思いやりがあり、現場の人望を集めていた。円満さが決して八方美人ではなく、通すべき筋はピンピン通すなど、指導者としてうってつけの人だった。

政経斗争では小隊長として上京、斗争中は臨時執行委員として先頭に立って闘っていた。災害時も紅葉方丘地域分会長、現場委員として活躍していた。

遺族は奥さんと健一ちゃん(五年生) 幸子ちゃん(二年生) それに奥さんのお母さんで悲しみに沈んでいる。

24ストに突入

相つづき落盤発生、三池の無法地帯化と会社の無反省な保安サボにあり、組合では、もはやこれ以上黙視できないと、保安抗議のほかに、組合では、二十八日会社に対してスト通告と同交申入れを行なった。そして、金組は悲しみと怒りの中から三十日、き然として実行力行使に突入した。

災害抗議スト突入指令

昨二十七日正午すぎの宮浦四五五部三・五部下一片三昇二中段NO3切羽において発生した連続落盤はついに同志波村一、井手口泉、徳永諭の三氏の尊い生命を奪った。

われわれは限りない悲しみを克服し、断固たる態度を以て、本日、緊急同交開催を申入れると共に、会社側の無反省な保安無視に対しては、実力抗議の他はないことを決意し、炭労中斗発第八号指令(六月二十八日付)に基づき左記のとおり指令する。

一、斗争指標
今次災害に対する抗議ならびに保安同交の促進による安全職場の確立
二、期日・規模
六月三十日坑内外各番号一斉二十四時間ストライキ
なお、具体的細部事項については支部斗争委員長の指示に従うこと。

以上

慰霊・抗議集会

二十四時間スト決行の三十日各地域分會では慰霊・抗議集会をいっせいに開催した。宮浦分會の徳永さんの社葬は二十九日に行なわれたので、宮浦分會では一日早くこの日行なつた。

争い後、輪番制はいかにとっていただ、今では毎日あつてついに会社が回っている。と怒りをまぎまぎしていた。分會員の悲しみと怒りは、波村さんが遺体となって地域へ帰ってきたとき、棺を赤旗でついで運ぶなど、おれたちが担ぎだすのだから、語っていた。

地域の分會員は「今朝にまで会社からは直接の担当者である主席も係長も顔をみせぬ。三本線の家だからこれだけの怒りか」と怒っていた。

ある分會員は「あつたのままだは黙っておれぬ。組合が何らかの行動をとらねばならぬ」と「救助作業に執行部が坑内に下つて、テキパキと指示をしているとき、副長はポンヤリと見ていたが、牛乳がきたときは一番に飲んでた。こういう連中に保安は任せられぬ」「救出作業のとき係員は天井がバレーしているから柱を内側から打とうといつたが、係長はそれをきかずに、たつた。徳永さんを死なせず済んだのに」と口々に保安に対する会社のサボを暴露させていた。

慰霊・抗議集会

三十日一齊に開く二十四時間スト決行の三十日各地域分會では慰霊・抗議集会をいっせいに開催した。宮浦分會の徳永さんの社葬は二十九日に行なわれたので、宮浦分會では一日早くこの日行なつた。